

園だより

2024年11月号
2024年11月1日発行

くらべない 評価しない



保育カウンセリングの研修で「表現アートセラピー」にふれる機会がありました。参加者はクレヨンでテーマに沿って心のおもむくままに描いたり、言葉を発せず一緒に粘土を使って自由に協同製作をしていました。その中で講師は「評価しない、分析しない」「上手とか下手とか、人と比べない」「ありのままがいい」として、自分自身と向き合う時間を過ごしていました。絵を描くことが苦手という方も多かったのですが、比べない、評価されない自由で安心できる環境の中で、自己内対話をしながら製作に没頭していました。

子ども達も季節ごとや行事のうちに、絵を描いたり製作をしています。お部屋や廊下に作品が飾られていたりすると、つい我が子と他の子の作品を見比べてしまいがちですね。初めてクレヨンをもつ時は自由にぐちゃぐちゃと楽しんでいるのに、大人が指導したり先に描いて見せたりするとかえってやらなくなります。苦手意識を持ってしまうと、大人に「描いて！」と依存して手を出さなくなる傾向があるのです。何気に上手いとか下手とか大人が言葉を発すると、そのことで萎縮してしまうのでしょうか。

乳幼児期の表現活動は、なによりも楽しんで没頭して心が解放される遊びであってほしいです。泥んこ遊びの延長のように、のびのびと描いたり、躍ったり歌ったりが出来たらいいですね。心が動くと、身体も自然と踊ったり叫びたくなります。子どもの表現は多様で無限ですから、古く硬くなった大人の枠組みで型に嵌めたり、評価しないよう、我が身を戒めています。

それと同時に、自分自身にも「私はだめだ！」「もっと頑張らなければ！」とジャッジしないようにしましょう。ありのままの自分でいいと思えたら、少しでも荷が軽くなるのではないのでしょうか。

園長 三幣典子



「あなたの重荷を主にゆだねよ。
主はあなたを支えてくださる。」
(詩編55遍23節)